

海外安全対策情報（2014年10月～12月）

1 社会・治安情勢

12月25日マユゲ県(Mayuge)および同28日カンパラ県(Kampala)にて、イスラム教指導者2名が何者かにより殺害されました。一部報道では権力争い、親族内の揉め事およびビジネス関連のトラブル等により殺害されたと報じられています。しかし、ウガンダ警察庁長官によると、殺害された2人はアル・シャバーブおよびADF(注)から新たなテロリストを集うよう依頼されたのを拒否したためと言及しました。なお、同人たちはADFからテロスキームの障害として狙われていたとの情報もあったとのこと。

(注)ADF(Allied Democratic Force: 民主同盟軍)は、スーダン政府の支援を受けていたウガンダ西部の反政府組織であり、ムスリム人口に基盤を置いています。2000年を最後にウガンダ国内において目立った活動は確認されていませんが、活動を活発化させているとの情報もあり、今後、具体的なテロ活動につながる可能性が高まっているとされているため、注意が必要です。現在、ADFはコンゴ(民)で活動しており、兵士数は350～400名と推定されています。

ADFは、必ずしもアル・シャバーブの指示を受けテロ計画を企てているわけはありませんが、同テロ組織の影響を受けており協力関係にあります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

○カンパラ県(Kampala)

ア 10月4日午後、ウィリアム・ストリート(Wiliam Street)にて女性が所持していた携帯電話が窃取されました。女性と一緒にいた男性が犯人を追跡したところ、犯人は鉄パイプで男性を撲殺しました。鞆、携帯電話、ネックレス等は特に狙われやすい傾向にありますので、携行時は十分注意してください。

イ 12月11日午前4時頃、ブセガ(Busega)にあるSumart Supermarketに5人組が侵入しようとしたところ、警察に発見され全員射殺されました。警察は事前に犯行計画を入手しており、周辺で張り込んでいたとのこと。

ウ 12月31日午後11時頃、邦人3名がタクシーを利用しオアシスマール(Oasis Mall)前の路上で降車したところ、その直後に15名程の男性から暴行を加えられ鞆が奪われました。異変に気付いた警察官が直ぐに駆け付けましたが、犯人らは一斉に散らばり逃走しました。

○ンバレ県(Mbale)

10月5日午後、4人組が住居に配置されていた警備員を殺害した後、住居内へと侵入しテレビ、DVDプレーヤー、ノートPC、デジタルカメラ、金庫等の金品を窃取し逃走しました。

○ヌオヤ県 (Nwoya)

11月7日午前3時頃、カンパラ県 (Kampala) からコボコ県 (Koboko) へと向かっていたKKコーチバスが、カルマ・アルアハイウェイを走行中に強盗に襲撃され、乗客の現金や携帯電話等が強奪されました。

○カバレ県 (Kabale)

12月9日午前3時頃、セファス・イン・ホテル (Cephas Inn Hotel) に強盗が押し入り、宿泊していた観光客からUS\$2,000及びパスポート等を強奪し逃走しました。

(2) 殺人事件

○マナファ県 (Manafwa)

10月23日報道によると、マナファ県に所在する村の長と70歳女性が19人組に殺害されました。殺害動機について、2人が魔術をしており自分たちに災いをもたらすと思い殺害したとのこと。

○カベラマイド県 (Kaberamaido)

12月4日報道によると、50歳男性と16歳男性が何者かに殺害されました。未だ犯人逮捕に至っておりません。

(3) 強姦事件

○ナムツンバ県 (Namutumba)

10月8日報道によると、36歳男性が11歳女兒を強姦し警察に逮捕されました。

○イバンダ県 (Ibanda)

11月6日、27歳男性が23歳女性を強姦し警察に逮捕されました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ソマリアの武装勢力アルシャ・バーブは、ウガンダ国軍がAU(アフリカ連合)平和維持活動部隊としてソマリアで活動していることを不服としており、ウガンダに対する報復声明を再三発出しているため、引き続き注視する必要があります。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫されると言った事件は発生していません。しかし、近年ウガンダにおいても身代金を目的とした誘拐事件が発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いです。

以上